

## 形容詞の位置

### Q -1 :品質形容詞と限定形容詞とは？

1 品質形容詞 *adjetivo calificativo* は修飾する名詞の性質を示す形容詞です。名詞の前に置かれる場合と後に置かれる場合があります。ほとんどの形容詞が品質形容詞で、さらに派生、借用、新生により無限に生成されます。

- *bueno* 良い、*malo* 悪い、*grande* 大きな、*pequeño* 小さな。

2 限定形容詞 *adjetivo determinativo* は人や物を指示したり、その数量を示す形容詞です。次の種類があり、数は限られています。

- 指示形容詞→指示語
- 所有形容詞（弱勢形）→所有語
- 不定形容詞→不定語
- 数形容詞→数詞
- 疑問形容詞→疑問語
- 関係形容詞→関係詞

これらは一部の例外を除き名詞の前に置きます。

### Q -2 :名詞+形容詞のときは？

品質形容詞は名詞の後にあるのが普通です。そのとき形容詞は名詞を類別する働きを持ちます。たとえば *un lugar bonito* 「きれいな場所」はさまざまな *lugar* 「場所」がある中から類別して「きれいな場所」を指します<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 英語では形容詞は名詞の前に置かれます。White House「ホワイト・ハウス」。これに対してスペイン語では Casa Blanca。"W"は英語では'double u'と言いま

- Allí hay unas playas estupendas y un clima muy agradable. // あそこにはすばらしい海岸ととても快適な気候がある。

### Q -3 :形容詞＋名詞のときは？

(1) 形容詞が名詞の性質を説明するときは名詞の前に置かれます<sup>2</sup>。

- En toda la ciudad vemos enormes muñecos de cartón. // 町全体に巨大なボール紙の人形が見えます<sup>3</sup>。

(2) 話者の感情・評価が加わると形容詞は名詞の前に置かれます。

- Era una hermosa mañana. // それはとても美しい朝でした。

(3) 数量を示す形容詞は名詞の前に置かれる。

- En verano muchos españoles huyen de las grandes ciudades y van a las numerosas playas turísticas. // 夏になると多くのスペイン人は大都市を逃れ、無数の観光地の海岸へ出かけます。

(4) 名詞に本来備わった性質を示す形容詞は名詞の前に置かれます。決まった表現で、詩的な響きがあります。

- blanca nieve 白雪、dulce miel 甘い蜜

### Q -4 :名詞の後と前で意味が異なる形容詞は？

いくつかの形容詞は名詞との位置によって意味が異なります。

- hombre pobre 貧しい男 : pobre hombre 気の毒な男
- amigo viejo 年老いた友人 : viejo amigo 昔からの友人

---

すが、スペイン語では'uve doble'と言います。

<sup>2</sup> このとき、形容詞は名詞の性質を説明しているのであって、他の名詞から区別（類別）しているわけではありません。

<sup>3</sup> 上の文中の enormes 「巨大な」は muñecos 「人形」の性質を説明し、いろいろな人形の中から巨大なものを類別しているわけではありません。

- historia triste 悲しい物語 : triste cosecha わずかな収穫
- noticia cierta 確かな知らせ : cierta noticia ある知らせ<sup>4</sup>

### Q - 5: 形容詞が動詞と共に使われるときは？

(1) SERやESTARなどと共に使われると主語の補語となります<sup>5</sup>。形容詞は「主語＋動詞＋主語の補語」の文の中で補語の位置に用いられます。このとき形容詞の形は主語の性・数に一致します。

- Marta es simpática. // マルタは感じがいいです。

(2) 目的語の補語となるときがあります。形容詞は「主語＋動詞＋目的語＋目的語の補語」の文の中で補語の位置に用いられ、目的語の性・数に一致します。

- He dejado abierta la puerta. // 私はドアを開けたままにしておきました。

(3) 形容詞が副詞的に使われるときがあります。動詞に対して副詞のような働きをしますが、形容詞なので形は主語の性・数と一致します。

- Hemos vuelto cansados a casa. // 私たちは疲れて帰宅しました。

---

<sup>4</sup> cierto は補語として用いられるときは「確かな」という意味に限られます。  
例 : Esta noticia es cierta. // その知らせは確かです。

<sup>5</sup> この構文をとる自動詞には ser, estar, parecer, fingir があります。これらは補語を中性の lo で代名詞化することができます。

- ¿Es ella profesora? -- Sí, lo es. // 彼女は先生ですか？—はい、そうです。

他に hacerse, ponerse, volverse などの再帰動詞でも類似した文になります。

- Con tantas tareas, me vuelvo loco. // こんなに宿題があると、僕は頭がおかしくなる。

## スペイン語の質問

**\* un estudiante español は「スペイン語を勉強する学生」になるのですか？それとも「スペイン人の学生」となるのですか？どのようにして書き分けたら良いのでしょうか？**

→un estudiante español は「スペイン人の学生」です。「スペイン語の(を勉強する)学生」ならば un estudiante del español となります。

**\* 一つの名詞にいくつかの形容詞を修飾させる場合には、その順番に決まりがありますか？**

→文法書には、名詞の後に「分類形容詞(部類を示す) + 品質形容詞(性質・状態を示す)」という順番が普通だと記述されています。たとえば una casa andaluza maravillosa 「すばらしいアンダルシアの家」。一方 la casa ideal pequeña 「小さな理想的な家」のように品質形容詞が並ぶときは順番がとくに決まっていないようです<sup>6</sup>。しかし、このような機械的な分類よりも話者の伝えようとする意志を尊重し、名詞と形容詞の結合性・密着度を重視すべきでしょう。たとえば、はじめに una casa ideal 「理想的な家」がイメージされ、それが「小さいのだ」ということを言いたいときは la casa ideal pequeña となります。逆に una casa pequeña 「小さな家」が先にイメージされ、それが理想的だということならば la casa pequeña ideal となります。このように話し手が伝えたい意図によって語順も異なります。

fin

---

<sup>6</sup> 長い形容詞が後に来る傾向があります。